

The Higo Foundation for Promotion of Medical Education and Research

# 肥後医育ニューズレター

(題字 元理事長 徳臣晴比古)

発行所 公益財団法人肥後医育振興会  
 〒860-0811 熊本市中央区本荘2丁目2番1号  
 TEL・FAX (096) 373-5425  
 ホームページ <http://www.119higo.com/>  
 発行人 理事長 西 勝英 編集人 中村 公俊  
 発行所 発行人 榑かもめ印刷 TEL (096) 279-3440



楷樹 (山崎記念館前)

## 理事長挨拶

理事長 西 勝英



公益財団法人「肥後医育振興会」

は本年度をもちまして創立二十六年を迎えることとなりました。創立以来、永きに渡りご援助、支援していただきました皆様深く感謝いたしますと共に、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

本財団は熊本大学医学部創立百周年を記念しまして、熊本における医学研究、医療の充実、市民への正しい医学情報を提供することを目的として発足いたしました。発足当時、大学は改革の中にあり、大学医学部としての在り方に大きな期待が寄せられていた時期でもありました。そこで、肥後医育振興会は先進諸外国の私立大学に見られるような財政面の助成を行う外部支援組織として研究・教育助成を行うことを主眼として設立さ

れた財団として発足しました。今まで医学部の研究を支援するために微少なながらも研究助成金の寄付、あるいは各種研究会、学会活動に支援を行ってきました。

本財団は発足以来すでに二十六年を経過していますが、その財政基盤はさらなる研究支援活動を行えるには程遠い状態であります。財団発足当時は地域行政当局から財団に対する調査事業などの委託を事業受注して、財団の運営資金に当てていきましたが、現状ではそのような調査事業の委託もなく、財政面での苦境にたたされています。さらに、熊本を襲った未曾有の地震災害、豪雨災害、更に二〇二〇年に発生した新型コロナウイルス感染症蔓延による経済不況により財団の基盤となる寄付をお願いする事が困難な状況となっております。しかし、今後、大学の研究・教育事業に助成、一般市民への正しい医学情報の提供等財団の本来の主旨を多くの同窓生、ある

いは医薬業界、さらには一般市民に理解を求め、財団への財政面での支援をお願いする次第です。尚、現在、本財団のような公共性の高い組織(公益財団法人)に対する寄付に対して免税措置が取られている事をお知らせし、皆さま方のご理解の程をお願いいたします。

私は大学定年後、十八年に渡り高齢者医療の現場にて高齢者医療問題の深刻さの現状を見てきました。ここで、高齢者医療の今後の問題点について触れてみようと思います。

今日、わが国は高齢者人口は二五%を越える超高齢者社会に直面し、特に高齢者介護は深刻な社会問題を抱えています。何よりも深刻なのは介護人材の慢性的な供給不足と介護保険制度の財政不足の問題であります。厚生労働省の推計によると団塊の世代が後期高齢者となる七十五歳を迎える二〇二五年には介護人材の需要が二百五十三万人で、現状からの推定では約三十八万人不足すると報告されています(厚生労働省・二〇一五)。この報告に基づき安倍内閣は二〇二五年までに介護人材五十

万人計画を打ち出し、国や、地方公共団体は具体的な対策に取り組んでいます。その成果は捗捗しいものではありません。さらに、財政不足問題は介護保険制度の存続に関わる問題でもあります。少子化が進み健康保険、介護保険を支える人口の減少、一方では、介護保険利用者の増加という矛盾をかかえているのであります。今後、高齢者医療、介護について自己負担額の増加も視野に入れなければならない状況に至っていると思われれます。

介護の問題のみならず、高度な医療を提供する急性期病院の地域偏在、それを支えるべき中核広域療養型病院の整備の急務、都会における介護施設の不足、医療人材の偏在、過重労働は、将に今日直面する問題なのであります。

今後、本財団におきましても、いずれこの様な問題についてより正しい医療情報を医療界、県民の方々に提供出来るよう努めていきたいと考えている所です。今後とも宜しく本財団に皆さま方のご支援、ご鞭撻の程をお願いする次第です。